

やすらぎ通信

第16号 (平成24年3月1日) 発行：大阪府立急性期・総合医療センター

弥生（花見月）

仰げば尊とし

文部省唱歌

- (一) 仰げば尊とし わが師の恩
教（おしえ）の庭にも はや幾年（いくとせ）
思えばいと疾（と）し この年月（としつき）
今こそ別れめ いざさらば
- (二) 互いに睦（むつみ）し 日ごろの恩
別るる後にも やよ忘るな
身をたて 名をあげ やよ 励めよ
今こそ別れめ いざさらば
- (三) 朝夕 馴（なれ）にし 学びの窓
蛍の灯（ともし）火 積む白雪
忘るる間（ま）ぞなき ゆく年月
今こそ 別れめ いざさらば

季節はいよいよ春に進んでまいりました。万代池もこれから命のほとぼしりを感じさせてくれる最も美しい季節を迎えようとしております。渡り鳥が飛び立つにはまだ時間があります。皆さん！春を迎える喜びに心を躍らせ、自然いっぱいの万代池公園をウォーキングしてみませんか？

さて、近畿の春の到来を告げる行事と聞いて、まず誰しも真っ先に出てくるのが奈良東大寺二月堂のお水取り。3月1日から15日まで行われ、お水取りの神事そのものが行われる12日深夜には1メートルを超える大きな大松明をかざして練行衆と言われる修行僧たちが二月堂近くの若狭井（わかさい）という井戸まで道明かりをともしながら行進することから火祭りとしても大変有名になり、多くの見学者が詰めかけます。正式には旧暦の2月に行われていたことから「修二会（しゅにえ）」と呼ばれ、お水取りとは、練行衆が修行を中断し、若狭井の水を観音様に「お香水（おこうずい）」としてお供えするのに汲みあげる行事のことです。この「修二会」は東大寺大仏の開眼法要が営まれた天平勝宝4年（752年）に創始されて以来、戦国時代戦火により東大寺が火災に見舞われたときにも中断されず、毎年連綿と続けられており、本年度1261回目を数えます。

また、この若狭井に流れ込んでいる清水は、若狭の国福井県小浜市にある神宮寺で毎年3月2日に行われる「お水送り」神事で送られた水が10日をかけて東大寺の若狭井まで到達すると言われており、この送る側の若狭の国側でも当日は大々的に「お水送り」神事が行われ、今では多くの見物客が神事を見に訪れます。そしてこの神事でも火が使われます。「お水送り」神事は2日午後6時頃から始められ、神宮寺本堂ではまず、本堂回廊から赤装束の僧が大松明を左右に振りかざす行が行われ、大護摩に火が焚かれます。その後、山伏姿の行者や白装束の僧らを先頭に、大護摩からもらいうけた火を手に3,000人ほどの松明行列が2キロ上流の「鶉の瀬」に向かい、ここで「お香水」を遠敷川（おにゅうがわ）という河川に注ぎ込むこととなります。これが、東大寺まで届くと言われていています。

こうしたお水取り行事、お水送り行事に大々的に「火」が使われることから、かつて作家の松本清張は小説「火の路」などで、この行事は古代ペルシャの土着宗教のゾロアスター教の影響を受けていると指摘しています。世界最古の一神教という説もあるゾロアスター教は紀元前3世紀頃に成立したペルシャのアルサケス朝時代に教義が確立し、その後ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教にも影響を与えたと言われております。このゾロアスター教は光の象徴として純粋な火を尊んだことから「拝火教」とよばれ、清張の「火の路」ではこのゾロアスター教が飛鳥時代には日本に入ってきていたとの説を唱えています。さらに、清張は若狭で送られた水が地下を通り

東大寺に到達するという地下水路の発想は、古代ペルシャ帝国の時代にイラン高原やアフガニスタンなどの乾燥地帯で使われていた灌漑用の地下水路であるカナートに着想を得たのではないかと述べています。

古代日本文化が、仏教の伝来がそうであるようにインドや、中国、朝鮮文化の影響を受けて形成されてきたことは周知の事実ですが、それと同様メソポタミア文明やペルシャ文化などの影響を受けてきたと言われていています。その文明、文化の通り道になったのがシルクロードです。こうしたメソポタミアや中東、イスラエル文化が日本文化や宗教に影響を与えた痕跡はいろいろ残っています。例えば京都八坂神社のお祭りである祇園祭の山鉾巡行に使われる「函谷鉾（かんこほこ）」の正面を飾っている前掛けの織物であるタピストリーには旧約聖書の「イサクの嫁選び」のシーンが描かれています。最初の預言者アブラハムから依頼を受けたしもべがアブラハムの息子イサクの嫁さがしに行き、泉で美しい娘リベカから水を飲ませてもらい、やがてイサクはリベラと結婚するという「創世記」の有名な話が織られています。また、祇園まつりの「祇園（ギオン）」は、古代イスラエルを中心として話されていたヘブライ語の「ズィオン」（英語で Zion=ザイオン。一般にはシオン。旧約聖書に出てくる古代イスラエル・エルサレムの「聖なる」丘のこと）に由来しているという説もあるようです。このほかに日本の琵琶のルーツは古代ペルシャ帝国の時代の「バルバット」という楽器にあると言われていています。そのバルバットが、シルクロードを東に旅し、色々な地域や人々に演奏され、少しずつその地にあった様式に姿を変え、唐を経て日本にやってきて琵琶になったそうです。そして同じバルバットがローマ帝国の中を西に旅してヨーロッパにたどりついてできたのが、バロック音楽などで演奏されるミュートであると言われていています。

このように、紀元前古代ペルシャや古代イスラエルなどは世界の文明の中心地であったことから、インド、中国、朝鮮、日本に、またヨーロッパにと大きな影響を直接・間接に与え、それぞれの地域の人々の生活や文化に溶け込んでいったといえましょう。

その日本への文明・文化の伝播経路はまぎれもなくシルクロードであり、若狭は日本海をまたぎそのシルクロードの東端、日本から見るとシルクロードの玄関口に位置しています。その若狭と東大寺がつながることにより、東大寺もシルクロード文明や中東文明・文化と密接に結びついていることとなります。

このように、日本の文化は世界各国の文明・文化のエッセンスを凝縮して成立したものであり、それだけにより質の高い優れた文化が日本において花が咲いたと言えます。

日本にはお水取り・お水送りにかぎらず全国津々浦々にその地方固有の伝統行事や芸能が残っています。こうした伝統行事や芸能もそのルーツをたどれば、大陸文化や

インド・メソポタミアなどの影響を受けて成立しているものも少なからずあると思われます。文明の普遍性、文化の固有性ということに着眼しながらも、それらの行事の成り立ちの背景などを自由に空想を広げながら探り考えてみるのも知的な遊びとして大変おもしろいのではないのでしょうか。

今月の歌は「仰げば尊とし」を取り上げました。昭和を生きた世代にとって、卒業式といえばこの美しく情感あふれる曲でした。小学校、中学校、高校と、卒業式は自分の大人への成長の大きな節目。過ごした学び舎での思い出を振り返るとともに、その成長を暖かく見守り支えてくれた恩師への感謝、友情をはぐくんだ友への惜別の気持ち、さらにはこれから始まる人生の新しいステージへの期待、決意などいろんな思いをこの曲に託して歌ったものでした。しかし、その「仰げば尊とし」が日本の卒業式では歌われなくなってしまっています。その主な理由は「歌詞が難しい」「二番の『身を立て名をあげ』は立身出世主義だ。」ということのようです。しかし、人生の節目の時こそあえて難しい歌詞の曲を歌うことに挑戦することも、また、自立心をもった人間をめざし「身を立て」と歌うことも必要ではないかと思います。

一方、台湾では、未だ多くの学校の卒業式で、この「仰げば尊とし」が愛着をもって歌われているようで、なんとも複雑な思いがしますね。リターン・トゥ・ジャパニーズウエイ（マインド）。急速に進んできた社会の変化のなかで、本来日本人として捨ててはいけないものまで捨て去ってきた。それが、今日の精神文化を混沌とさせているのではないかと危惧をしますが、皆さん方いかがでしょうか。

ところで、先月5日、350人という多くの高校1・2年生を迎えて当センターとして初めてのイベント「ふれあい病院探検隊」を開催しました。当日は朝から「僕は外科医」「私は看護師・管理栄養士」などと参加者は思い思いの夢を抱き、体験マップを手に様々な体験メニューにトライ。当センターは高校生の熱気であふれました。

脳神経外科のメニュー「君もマイクロサージャリーに挑戦」で友人二人とともに脳血管吻合（ふんごう）シミュレーションに挑戦した高校2年生のI君は、「将来の夢は小児科医。きょうは糸が最後まで結べてきもちよかった。頑張って医師になります。」と語っていました。医師希望の高校生だけでなく、看護師、薬剤師、管理栄養士、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、医事事務など参加者の夢は多様にわたっていたことも大変よかったと感じています。若者が自らの職業観を持ってない時代といわれている現在、このようなイベントを通して将来の職業選択に大いに役立てていただければ、私どもも大変幸せに感じます。是非来年度の開催につなげていきたいと思っております。

また、このイベントにはボランティアとして、相愛大学子ども発達学科・発達栄養学科、森ノ宮医療大学看護学科・理学療法学科・鍼灸学科、大阪府立大学看護学部から総勢 114 人の多くの大学生の皆さんにボランティアとして参画いただきました。

この大学生の皆さん達もまた、近い将来、医療現場で働くことなどを目指し日々頑張っておられます。

本イベントにボランティアとして参画した経験が、一人一人の夢の実現へ向け何らかの一助となればと願っております。

初めてののおおがかりなイベントでしたが、参加した高校生たちは、アンケートで 100%近く「有意義だった」と回答してくれました。この成功は、連携大学の関係者の方々のご協力があればこそと、改めてお礼を申し上げます。

【(新) 関節リウマチ・バイオサポートセンター 4月開設！—免疫リウマチ科】

関節リウマチの治療に非常に効果の高い生物製剤が開発され、近年多く治療に使われ出したことから、地域の医療機関でも安全性を確保しながら治療を行うことが可能となるようサポートさせていただく「関節リウマチ・バイオサポートセンター」を4月から設置することになりました。

設置に当たっての免疫リウマチ科部長からのメッセージをご紹介します。

<関節リウマチ・バイオサポートセンターの設立にあたって>

免疫リウマチ科主任部長 藤原 弘士

「関節リウマチでは、激しい関節の痛みや変形による動作の不自由さから、患者さんはつらい思いをされます。しかしながら今では治療も進歩し、とりわけ生物学的製剤という新しいお薬によって、関節リウマチの多くの患者さんが良くなり、一部の患者さんでは治癒される方もみられるようになってきました。

その一方で、生物学的製剤を使用すると、半年間で数パーセントの確率で、重篤な副作用が生じることも事実で、その副作用の予防や治療も非常に重要です。

そこで、私たちはこのような非常によく効く生物学的製剤を、患者さんと主治医の先生方に安全にそして安心してご使用していただけるように支援することを目指した関節リウマチ・バイオサポートセンターを平成24年4月に設立することにしました。

これまで以上に、多くの患者さんが現在の関節リウマチ治療の進歩の恩恵を受けることができるように努めさせていただきますのでよろしくお願い申し上げます。」

【(新) 新たに頭頸部がんの IMRT 治療を4月から始めます！ —放射線治療科—】

IMRT(強度変調放射線治療)は、周辺の正常組織の線量を減らし合併症のリスク低減に画期的な方法です。昨年11月から前立腺癌に対するIMRTの保険診療を開始しましたが、今年4月からは適応拡大して頭頸部癌のIMRTを開始する予定です。頭頸部癌では脳・脊髄・唾液腺など重要臓器が複雑に関係し、通常の放射線治療では唾液腺障害が必発です。さらに腫瘍に対しても十分な線量を投与することが難しいケースもあります。IMRTの技術を用いればこれらが解決し、腫瘍制御率向上だけでなく患者さんのQOL維持にも役立ちます。

主な対象疾患は咽頭癌です。適応など詳細については放射線治療科もしくは耳鼻咽喉・頭頸部外科までお問い合わせ下さい。

【(新) PET-CTによるがんの検査を開始しました！—画像診断科】

当センターでは、がん診療の充実をめざし、診断精度の一層の高度化を図るために、これまで外部に検査を依頼していたPET検査を内部で可能となるようPET—CTの整備

を進めてきましたが、このほど完成し、いよいよ今月 21 日から患者さんの撮影を開始することになりました。3 月中は院内の患者さんから検査を行い、4 月からは地域の医療機関からの撮影依頼も受け付けることにしております。

なお、当センターの PET-CT は検診には対応いたしません。

お問い合わせは画像診断科 RI（核医学）・PET 検査室までお願いします。

【(新) 土曜日の「地域予約」受付を開始します—地域医療連携室】

3 月 1 日より、地域医療連携室では、土曜日も「地域予約」のご依頼に対応させていただきます。「地域予約」をお取りいただくことで診察の待ち時間を短縮し、患者さんによりスムーズに受診いただくことができます。是非ご利用ください。

〈地域予約受付時間〉	月曜日～金曜日	9:00～19:30
	<u>土曜日</u>	<u>9:00～12:30</u>
	(年末年始、祝祭日を除く)	

〈電話番号〉 06-6606-7014

〈 FAX 〉 06-6693-4143

【(継) 4 月から内科系に“総合内科”を新設します！】

当センターにおける内科系診療科は、臓器・疾患別に専門内科に分かれて診察を行ってきました。しかし、来院時に診断の明らかなでない患者さんや、専門領域の境界、あるいは重なる疾患をかかえておられる患者さんも多く見られることから、これらを総合的に診断し治療するとともに、的確な診療科を判断するための診療科の新設の必要性が高まってまいりました。また、感染性疾患の多様化やアウトブレイクの危機の増大など、今日感染症に対する診断機能の強化の必要性も高まってきております。

こうした要請に応えるとともに、当センターの医療水準を一層強化することなどを目的に、このたび、4 月から新たに「総合内科」を新設し、診療を開始します。

【(継) 「医療相談」コールセンターを設置しました—地域医療連携室】

患者さんやご家族などからの医療や病院利用に関するご相談を、専門の看護師が電話でご相談に応じる「医療相談」コールセンターをこのたび開設しました。お気軽にご利用ください。

電話番号 06-6692-2800 (専用電話回線)

相談日時 月曜日～金曜日 午前 9 時～午後 5 時

(年末年始、祝祭日を除く)

相談対象 医療相談を希望されるご本人若しくはご家族等

相談員 看護師

【(継) 前立腺がんのIMRT治療を開始しました—放射線治療科・泌尿器科】

前立腺がんに対するIMRT(強度変調放射線治療)を昨年11月から保険診療を開始しております。昨年導入したリニアック(Novalis Tx)を用いた画像誘導放射線治療です。この治療のメリットは、メスを使わずに高い確率でがんが制御できるだけでなく、通常の放射線治療と比べ晩期の有害反応(直腸出血など)が抑制できることです。この治療法が加わり、前立腺がんに対する放射線治療のほとんどが当センターで可能になりました。

【(継)がんの小線源治療を開始しました！—放射線治療科・泌尿器科・産婦人科】

放射線治療部では小線源治療装置を更新し、子宮頸がんに対する腔内照射を行っています。また、患者さんに優しい治療として、希望する方には鎮静下での治療を行っています。痛みを感じることなく小線源治療が可能です。

さらに、前立腺がんに対する小線源治療としてヨード密封線源永久挿入療法も行っています。全身麻酔下で長さ5mm、直径1mm程度の線源を前立腺に50-80個程度埋め込む治療法です。2-3時間の埋め込む手術を行うだけで、入院も数日で済み、非常に短期間で治療が完遂できるメリットがあります(通常の外部照射による放射線治療では7~8週間かかります)。但し、この治療は適応が限られます。

詳しくは当センター泌尿器科もしくは放射線治療科でご相談下さい。

【(再) 甲状腺外科外来を開設しました —耳鼻咽喉・頭頸部外科—】

耳鼻咽喉・頭頸部外科では、甲状腺外科外来を開設しております。

甲状腺外科の検査・治療の窓口として院内外からの診察依頼を幅広く受け付けています。甲状腺疾患の患者さんを対象に、即日超音波検査(細胞診を含む)と血液検査を行い、速やかに診断を行います。

外科的な治療が必要な場合は手術治療を行います。さらにバセドウ病や悪性甲状腺腫に対して、I-131によるRI治療が必要な場合も、画像診断科、放射線治療科と連携して治療を行います。

内科的な投薬治療を行う場合は、糖尿病代謝内科と協力して診療を行いますが、慢性期の疾患の場合は、地域のクリニックをご紹介させていただきます。

開設日 月・水・金の午後

お問合せ先 耳鼻咽喉・頭頸部外科 主任部長 坂田義治

【(再) 診察予約変更センター

11の診療科において診察の予約日・時間の変更を電話で受け付けています！

当センターでは、昨年6月から11診療科を対象に、電話で診察時間の予約の変更ができるよう「診察予約変更センター」を設置しています。

これは、当センターが進めています「患者さんにとって利便性の高い病院づくり」の一環として導入整備したもので、急な用事や体調変化で予約された日時に診察のために来院できなくなった場合に、電話で日時の変更ができるサービスをご提供するものです。

予約変更を電話でできるのは、以下の診療科です。是非、積極的にご活用ください。なお、このサービスは初診に関しては行っておりませんので、ご注意くださいようお願いいたします。

(電話番号) 06-6692-1201(代表)にダイヤルして
「予約変更センター」と言ってください。

(受付時間) 午後3時～午後5時(平日のみ)

(対象診療科) 内科・呼吸器内科 消化器内科 糖尿病代謝内科 整形外科
免疫リウマチ科 皮膚科 形成外科 腎臓・高血圧内科
神経内科 脳神経外科 耳鼻咽喉・頭頸部外科

【(再) 入院治療費の概算を予めお知らせしています】

当センターにおきましては、入院患者さんへのサポートを総合的・集約的に行う入院センター（やすらぎセンター）におきまして、ご入院申し込み時に予め標準的な治療を行った場合の概算費用をお知らせするサービスを行っています。

今月の催し

【(新) 第17回相愛大学連携コンサート ―オペラ「フィガロの結婚」―】

～Go Ahead ! さわやかな午後の春風にのって～

「フィガロの結婚」のハイライをお楽しみ下さい!

日 時	3月22日(木) 2時～	
場 所	3階講堂	
出 演	(スザンナ)	西田 佳代
	(伯爵夫人)	白濱 梨枝子
	(フィガロ)	萬田 一樹
	(ケルビーノ)	阪上 真知子
	(マルチェリーナ)	大河 輝枝
	(ピアノ)	小柳 るみ

【(新) 府民公開講座】

下肢の血流障害で生じる様々な病気と予防法について

一下肢静脈瘤と慢性動脈閉塞症を中心に—

日 時 3月3日(土) 午後1時30分～3時

場 所 本館3階講堂

講 師 形成外科 医長 泉 憲

(参加無料)

【(新)合唱団 TG まつぼっくり Spring Concert】

地元の帝塚山学院(TG)の関係者で結成されている混声コーラスグループによる楽しいコンサートです!

日 時 3月5日(月)

第1部 午後1時30分～1時50分 場所 1階アトリウム

・マンドリン ・女性コーラス

第2部 午後2時15分～3時15分 場所 本館3階講堂

・ピアノデュオ ・弦楽合奏 ・ハープ ・マンドリン合奏

・男性合唱 ・女性合唱 ・みんなで歌おう

出 演 合唱団 TG まつぼっくり

主 催 医療サービス改善委員会

【(新)第5回やすらぎ寄席—平成の爆笑王 桂 かい枝落語会—】

日 時 3月12日(月) 午後2時～

場 所 3階講堂

出 演 桂 かい枝

主 催 万代やすらぎ亭

(入場無料)

【(新) 今月のすこやかセミナー】

① 心房細動・心配ない?それとも危険?

日 時 3月8日(木) 午後2時～3時

場 所 3階保健教室

講 師 心臓内科医長 古川 善郎

(参加無料)

② シミやあざのレーザー治療について

日 時 3月23日(金) 午前11時～12時

場 所 3階保健教室

講 師 形成外科 那須 賢花

(参加無料)

【(新) “今日は世界腎臓デー ” イベント ー腎臓・高血圧内科ー 】

～ 慢性腎臓病とは? ～

日 時 3月8日(木) 午後2時30分～4時

場 所 1階アトリウム

プログラム

- ・正しい検尿の知識
- ・高血圧と腎臓（血圧を測って血管を見よう）
- ・腎臓病の食事療法
- ・人工透析って? その他

(参加無料)

【(新) 大好評!!】

相愛大学連携・外来糖尿病教室～知って得する!糖尿病の付き合いかた～】

日 時 3月21日(水) 午後2時～3時30分

場 所 1階アトリウム

内 容 (1) インスリンのウソ?ほんと?

糖尿病代謝内科 藤田 洋平

(2) 私にもできる運動療法～腰やひざが痛くてもできること～

理学療法士 乾 純子

(3) コンビニ活用術

栄養管理室管理栄養士 笠井 香織

【(継) 現代美術空間・病院ギャラリー 第5回企画展 開催】

「やすらぎの木版作家ー浅野竹二

ユーモアとペーソスの自由版画展ー」

日 時 平成23年12月26日(月)～平成24年6月22日(金)

場 所 本館2階ギャラリー(入場無料)

浅野竹二は、1900年京都生まれ。京都市立絵画専門学校で日本画を学んだ後、油絵を始めますが、再び日本画を描き始め、日本画家として活躍します。1930年頃から

は、木版画の制作を始め、写実的な「名所絵版画」を制作する一方で、自由に自分の感性を表現した『創作版画』を制作し、大胆なフォルムと色彩で構成されたユーモア溢れる作品を発表しました。

今回は「ユーモアとペーソスの自由版画展」と題して、これまで展示してきた情景版画とは全く異なる軟らかく暖かい情緒豊かな自由版画をお楽しみいただきます。

なお、本企画展は大阪府立現代美術センターのご協力を得て開催しております。

【(継) 予告：第6回やすらぎ亭寄席一若手女流！のホープ 旭堂小二三の講談会】

日 時 4月23日(月) 午後2時～

場 所 3階講堂

出 演 旭堂 小二三

主 催 万代やすらぎ亭

(入場無料)

【(新) 予告：前田藤四郎「昭和モダニズム」・元永定正「色彩の魔術」版画二人展】

前田藤四郎(1904-1990)は、兵庫県生まれで神戸高商(現神戸大学)を卒業した後松坂屋宣伝部に入社。商業美術に携わる一方独習で版画の世界に。主に関西を中心に、木版をベースに、リノリウムやシルクスクリーンをも使用し、油彩絵具で刷り上げる独特の明快な作風を確立。昭和の大阪のモダニズムを代表する版画家となった。

元永定正(1922-2011)は、三重県生まれで、55年に関西を拠点とする前衛美術集団「具体美術協会」に参加し、吉原治郎に師事。偶然性を取り入れた抽象的なオブジェや平面作品を制作。おおらかでユーモアあふれる作風を確立する一方、70年代からは版画制作にも意欲的に取り組み、自作へのネーミングには抜群のセンスを発揮。

次回の企画展では、関西を代表した二人の巨匠の作品を同時展示します。是非、お楽しみにお待ちください。

日 時 6月25日(月)～12月21日(金)

場 所 本館2階現代美術空間一病院ギャラリー

【(新) 予告：芦屋市美術協会会員一小林芳夫写真展～邂逅の世界から～】

当センターの前身である旧大阪府立病院で心臓疾患の専門医(1998年、心疾患診療科部長で退職)として勤務していた小林芳夫氏が、退職後に本格的に写真家として活動を開始。今日まで日本国内のみならず、アジア、ヨーロッパ、北アメリカ、オーストラリア、ニュージーランドなど世界各地で撮影を行い、10年ごとに3冊の写真集「邂逅」「邂逅Ⅱ」「邂逅Ⅲ」を出版(1作目は自費出版)。多くの作品を大阪大学など

に寄贈されるなか、氏の手元に残されたた秀作 14 点の写真展を「前田藤四郎・元永
定正版画二人展」と同時開催します。

日 時 6月25日(月)～12月21日(金)

場 所 本館2階現代美術空間—病院ギャラリー

Topics

【(継) 開花を待つ！どうだんつつじ(満天星)！

やすらぎのプロムナード—北側通路周辺—

やすらぎのプロムナードで毎年控えめながら一斉に美しい可憐な花をつけ、見るものをなごませてくれるのがどうだんつつじ(満天星)。今年も厳しい冬をたくましく耐え抜き、いよいよ春が巡ってきました。来月には開花を楽しめるのではと期待が膨らみます。暖かい日には、皆さん是非ベンチで腰を下ろし、コーヒーなどを飲みながら、春の訪れを実感してみられるのもいかがでしょうか。

カレーショップの横のテラスの防風対策、今しばらくはつづけます。こちらの方も是非ご利用ください。

今月のコンシェルジュ

【(新) コンシェはどんな人？—三木由香子コンシェルジュの巻—】

三木「こんにちは、三木由香子と申します。春の訪れが待ち遠しく感じる日々が続いておりましたが、暦は3月。いよいよ春の到来ですね。私は、当センターに勤務させていただく前もやはり接遇のお仕事をしておりました。しかし、以前の仕事は日々感動や喜びがあるような仕事ではありませんでした。でも今はホスピタルコンシェルジュという仕事に出会い、患者の皆さんとの触れ合いの中で毎日感動と感謝をいただく喜びに、私自身もこの仕事に大変感謝しております。

辛いこともあります。患者の皆さん、職場の皆さんの笑顔が私の宝物です。どうぞ、これからもよろしくお願ひします。」

その他のお知らせ

【(継) やすらぎ通信はメルマガで！】

「やすらぎ通信」は、メルマガでも配信しております。ご希望の方は、当センターホームページからアドレスを登録していただきますようお願いいたします。なお、ホームページのご検索は、「大阪府立急性期・総合医療センター」にて可能です。

【(継) 医療費の支払いはキャッシュカードでできます！】

当センターの医療費自動精算機は、デビットカード対応となっておりますので、ほとんどの金融機関のキャッシュカードでお支払いができます。

これらの金融機関はJ-Debit に加盟していますので、キャッシュカードに自動的にデビット機能が付与されているからです。(ただし、キャッシュカードでお支払いいただいた場合は即座に口座から引き落とされることとなるため、口座に引き落とし金額以上の残高が必要ですのでご注意ください。)

このため、医療費の支払いのための現金を持たなくても、キャッシュカードさえあればお支払いが可能です。

また、引き落としの手数料は不要ですので大変便利です。是非ご利用ください。

なお、合わせて一般のクレジットカードでのお支払いもできます。

当センターは、当センターが「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力しています。